

「教学と現代」のご案内：「家族をめぐる諸問題」第2回

## 家族を支える社会福祉、天理教のたすけ合い

おやさと研究所では、2015年度から3年間の予定で、「これからの社会と天理教一ポスト教祖百三十年祭を見据えて」というテーマで特別講座「教学と現代」を開催しています。「たすけ合いの社会をめざして」という昨年度第1回の総論的な議論を踏まえ、今回（第2回）は家族を支える社会福祉の制度や援助の仕組み、また天理教のたすけ合いの実践及びその可能性について、ミニ・シンポジウム形式で考えていきたいと思ひます。

### 【発題者とテーマ】

金子珠理研究員 「現代日本社会の中の家族の現状」

八木三郎研究員 「家族を支える社会福祉制度とお道のおたすけ」

渡辺一城人間学部教授 「家族を支える地域社会とたすけあい社会」

質疑応答

総括コメント：高見宇造所長 「天理教社会福祉の視点から」

開催日：2017年2月25日（土） 14時45分～17時（公開教学講座に引き続いて開催）

場所：天理大学研究棟3階第1会議室

### 第8回伝道フォーラム開催のお知らせ

## 「アメリカに渡った天理教：移民・戦争・青年の力」

これまで伝道フォーラムでは、戦前・戦中の中国での天理教の活動と展開、コンゴブラザビル教会の歩み、そしてネパールの天理教の現況と課題などをとりあげてきました。今回は、「アメリカ」での天理教の歩みを振り返ります。

金子圭助氏は、「アメリカにおける天理教草創期の道は、移民として渡米した邦人が渡米後故郷からの便りによって道のことを知った者（東肥系緒方新蔵）、一時日本へ帰国した際入信した者（本島系岡崎薫夫）、また日本で天理教教師の資格を持ち、あるいはようぼくとなっていた者（周東系三国又五郎、名京系神澤常太郎）、さらには布教者として使命を持って派遣された者（本島系岡崎ヨ子、上野作次郎、東肥系東田春雄）などがいた。」（『改訂増補 天理教伝道史概説』）と述べています。アメリカに憧れ、最初期に渡米した19歳の玉置仙太郎氏（明治29年、1896年）、いわゆる秘密訓令後にアメリカ本土やハワイへと移り住んで布教した神澤常太郎氏（明治36年）や三国又五郎氏（明治40年）。第2次世界大戦という時代を経て、アメリカでの信仰を連綿と受け継ぎ、現代という時代、アメリカという社会のなかでの受容と展開を考えていくために、アメリカでの天理教の元一日、その体験を学ぶ機会にしたいと考えています。

先人たちのアメリカへの思い、アメリカ伝道への情熱とその布教の実を手がかりにして、フォーラムでは、アメリカでの天理教伝道の特徴を明らかにし、現在から将来へとつなげるアメリカの道について議論ができることを期待しています。

第1講ではアメリカの初期伝道の様子を、第2講では第2次世界大戦における収容所体験、第3講では青年会による「青年会ハワイ大会」（1974年）で示された“あらぎとうりょう”の思いについて、お話をうかがいます。

開講挨拶：高見宇造

講演1：尾上貴行：「アメリカ伝道の開始と展開」

講演2：山倉明弘：「信仰者の戦時強制収容体験が教えるもの」

DVD上映：『天理教青年会ハワイ大会』（1974年）

講演3：飯降政彦：「天理教青年会ハワイ大会」

質疑応答

場所：

天理大学研究棟3階第1会議室

日時：

2017年3月27日（月）

13時30分～16時15分

グローバル天理

第18巻 第2号（通巻206号）

2017（平成29）年2月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 高見宇造

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail [oyaken@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:oyaken@sta.tenri-u.ac.jp)

印刷 天理時報社

Printed in Japan